



社協

ほどがや

No. 49

【発行】
社会福祉法人 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会(会長 畑尻明)

〒240-0001 横浜市保土ヶ谷区川辺町5-11 かるがも3階 TEL:341-9876 FAX:334-5805
ホームページ: <http://www.shakyohodogaya.jp/> Eメール: h@shakyohodogaya.jp



アンケート調査から、担い手を発掘！

保土ヶ谷地区社協では、担い手（ボランティア）を増やすために、平成28年度に地区内の全世帯に向けたアンケート調査を実施。協力を名乗り出てくれた88名を対象に交流会で話し合いを進め、誰もが利用できる地域食堂「みんなでキッチン」と、電球交換など日常のちょっとした困りごとのお手伝いをする「ご近助隊かりば」が発足しました。

「みんなでキッチン」は平成31年1月にオープン。月1回、狩場町東部自治会館でスタッフ手作りの食事をみんなでいただきます。食事が終わった後、高齢者が小学生に勉強を教える光景も見られました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、現在は持ち帰り用の手作り弁当を販売しています。70食ほど用意しますが、30分ほどで売り切れてしまう盛況ぶりです。当日はのぼり旗をたて、おそろいのエプロンを身につけたスタッフが笑顔で迎えてくれます。（感染症拡大防止のため、休止の場合もあり）



「ご近助隊かりば」は令和2年2月に発足しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実際の活動はまだ始まっていませんが、スタートに向けて準備を続けています。

保土ヶ谷地区の第4期計画のスローガン『みんなのために自分のために みんなが楽しくつながる 心あたたかい保土ヶ谷地区』をめざして、保土ヶ谷地区の活動はこれからも続きます。

第4期

保土ヶ谷ほとなまちづくり

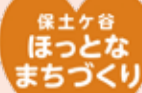
令和3〜7年度

地域のみんなを対象に／地域のみんなが進めよう

第4期保土ヶ谷ほとなまちづくり（地域福祉保健計画）（以下、計画）は、「つながり支えあい 安心していきいきと暮らせるまちほどがや」を基本理念とした、誰もがこのまちで安心していきいきと暮らせるようにしていこうとする計画です。

計画の実現に向けたテーマは「見守り・支えあい」「いきいき健康」「担い手づくり・情報」の3つです。これらのテーマに沿って各地区では様々な活動を行い、計画の推進に取り組んでいます。

活動のヒントや参加のきっかけになるよう、地区社会福祉協議会（以下、地区社協）の活動を紹介します。



地域のニーズに沿った移動支援とラジオによる情報発信！



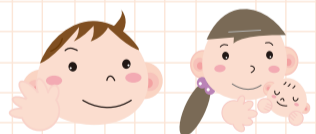
仏向地区の第4期計画は、「子どもから高齢者まで自然にあいさつができるまち仏向」をスローガンとし、「人と人とのつながりが進むまち」「人の温かさ優しさで楽しく暮らせるまち」「誰でも地域の一員として活躍できるまち」の3つを「目指す地域の姿」として進めています。



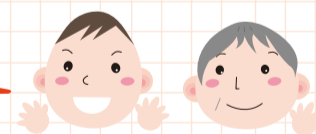
仏向地区社協の活動の一つである「仏向ふれあいワゴン」は、買い物などに困っている高齢者の移動支援として、地域のボランティアの協力のもと、車による送迎に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、外出に不安がある昨今の状況下では、山坂の多い仏向地区の高齢者にとって大切な移動手段となっています。令和3年4月より毎週運行することによって、買い物などに困っている方へ「人の温かさ」「優しさ」を届けています。

また、まちづくりの一環として、仏向地域ケアプラザの協力のもと、住民による地元のイベントや地域の情報発信を行う「FM Bukkou88.5（エフエム仏向）」が令和3年5月よりスタートしました。仏向地区社協の根本総会長がゲストとして出演し、仏向地区の目指す目標や「人とのつながり・支えあいの大切さ」のメッセージを届けました。

※二次元コードから「FM Bukkou88.5（エフエム仏向）」の公式ページをご覧ください。過去に収録されたラジオも聞くことができます。ぜひご覧ください。→



地域に住む様々な世代を対象とした見守り活動！



千丸台地区社協では、民生委員・児童委員（以下、民生委員）、主任児童委員と連携して、令和2年7月に中学生以下の子どもがいる世帯に、お菓子などをプレゼントしました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、なかなか外に出ることもできず、不安の多い子育て世帯に少しでも笑顔と安心を届けられたら、という気持ちで行われた取組です。

民生委員や主任児童委員がご家庭を訪問し、保護者と顔を合わせて話をする中で、その後も近所で会ったときお互いに声をかけ合える関係を築くことができました。

地域の活動のことをほとんど知らなかったのですが、地区社協がこんなことをしてくれるんだと驚きました。温かい気持ちになり、地域の活動を知ることもできました。（地域住民）



今回の取組をきっかけに、今まで関わりのなかったご家庭と顔が見える関係をつくることができました。困ったことがあったら相談してもらえよう、今後もつながりを作っていきたいと思っています。（地区社協役員）

千丸台地区は子どもの数が少ないからこそ、地域みんなで子どもたちの見守りができる街を目指しています。

千丸台地区社協の南出俊男会長からの「地域のことは地域で解決することが大切」との話のとおり、これからも千丸台地区の第4期計画の目標である「支えあい」の活動を進めていきます。

保土ヶ谷区社協の事業紹介

地域の支えあい・あたたかさを伝える ～あたたかほどがや寄付（食支援）～



令和3年6月上旬から実施した「あたたかほどがや寄付」の取組では、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け生活に困っている区内在住・在学の学生や子どもがいる家庭を食支援で応援しました。“地域の支えあい” “保土ヶ谷のあたたかさ” を伝えたいという目的で行っています。

7月1日の横浜国立大学での食料配分会では、184名の学生に食料や日用品を提供し、大学のエリアである常盤台地区連合町内会や民生委員・地区社協等の多くの方にご協力いただき、優しさや元気があふれる配分会となりました。

学生からは「あたたかい気持ちになった」「一人暮らしを始めたが、コロナで不安だったのですごく嬉しかった」など、感謝のメッセージが寄せられました。

この取組を通じ、“地域の支えあい” “保土ヶ谷のあたたかさ” を伝えることができました。

ご協力ありがとうございました。



ご協力いただいた寄付金でお米やレトルトカレー、缶詰等の食品を購入。企業や地域のみなさまからの寄付物品（日用品等）とあわせてお渡ししています。

～善意銀行のご案内～

保土ヶ谷区社協では、区民のみなさまからの善意の寄付を受け付けています。いただいた寄付金は保土ヶ谷区ふれあい助成金の原資の一部として、区内のボランティア団体など地域福祉活動を行う団体への支援に役立てられています。

◇寄付方法◇

区社協窓口（平日9時～17時）

銀行振込：横浜銀行 和田町支店（普通）0342527

社会福祉法人 横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会 善意銀行

「つながりをたやさない社会づくり」 ～赤い羽根共同募金～



今年も10月から赤い羽根共同募金運動が始まります。

赤い羽根共同募金は、保土ヶ谷区内の子どもや高齢者、障がい者を支援する地域福祉活動団体に配分するふれあい助成金や、区内にある22地区社協を支える助成事業、福祉施設の施設整備費、災害被災者支援活動等に活用されています。

今年の神奈川県・共同募金PR大使は、野毛山動物園（横浜市西区）で飼育展示されているグレイビーシマウマの『ココロ』です。500円以上のご寄付をいただいた方に、『ココロ』の動物キャラクターバッジを窓口にて進呈します。

※数に限りがあります。なくなり次第、終了となりますのでご了承ください。詳しくは共同募金会 保土ヶ谷区支会（事務局：保土ヶ谷区社協）までお問い合わせください。TEL:341-9876



10月1日から区内の各駅周辺で「街頭募金」を行います。みなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、中止場合があります。

LINE Payからも募金ができるようになりました。

※領収書の発行はできません。

※決済手数料を差し引いた額が寄付されます。



人と人をつなぎます！あなたのまちの ～ボランティアセンター～

ボランティアセンターでは、ボランティアを「したい人」と「してほしい人」をつなげるお手伝いをしています。個人の方のお困りごと、施設のお手伝い等々、さまざまにご相談に応じます。

「季節飾りサークル」に 参加しませんか？

クリスマス・お正月・七夕・夏まつり等、高齢者施設の季節を彩る作品を作りませんか。折り紙・小物作り等々…興味のある方はご連絡ください。

活動日：月1回程度

（第2水曜または木曜）

時間：13：30～15：30

場所：保土ヶ谷区福祉保健活動拠点3階



→詳しくは保土ヶ谷区ボランティアセンター（保土ヶ谷区社協）まで
TEL:332-2412（平日・土曜9時～17時）

外出に関する相談をワンストップで受ける ～移動情報センター～

移動情報センターでは、障がいや難病により移動に困難を抱える方へのガイドボランティア（以下、ガイボラ）・ガイドヘルパー制度のご案内をはじめ、外出時の付き添いのコーディネートを行っています。

お気軽にご相談ください！

ガイボラ募集中！ ～私たちの仲間になりませんか？～

ガイボラとは、障がい児・者の外出時の付き添いボランティアです。小・中学校の個別級や特別支援学校に通う子どもの通学支援、作業所などへの付き添い支援などの活動があります。（奨励金あり）



→詳しくは保土ヶ谷区移動情報センター（保土ヶ谷区社協）まで
TEL:332-2479（平日9時～17時）

いのちと健康・尊厳を守る ～日本赤十字社～



日本赤十字社は、新型コロナウイルス感染症への取組や災害への備えをはじめとした、いのちと健康・尊厳を守る活動をしています。

また、令和3年7月に発生した静岡県をはじめとした全国的な大雨災害では、現地の避難所等に救護班やこころのケア要員を派遣するとともに、赤十字ボランティアも救護物資の配布などの活動を行いました。



みなさまからいただいた募金8,991,895円（令和3年度実績 ※7月末現在）はこうした活動に活用されています。今後ともみなさまの温かいご支援をお願いいたします。



『ハートラちゃん』

日本赤十字社保土ヶ谷区地区（事務局：保土ヶ谷区社協）

編集後記

コロナ禍での多様性と調和を目指したオリンピック、パラリンピック。第4期保土ヶ谷ほっとなまちづくりもちょっとした工夫やきっかけにより、地域のみなさまの支えあいにつながればと願いつつ…とにかく、前を向いてがんばりましょう！
編集委員長 根本和治



*この広報紙は共同募金の配分金を活用して発行しています。

*この広報紙のデジ版を、保土ヶ谷録音グループ「はし」の協力により発行しています。ご希望の方は保土ヶ谷区社会福祉協議会までご連絡ください。

【編集委員】根本和治（委員長）・中村好美（副委員長）・空尾奈王子・齊藤誠・菅沼久美子・播口輝二・島田直樹・大久保節子

